

一般社団法人 倫理研究所

令和元年度

年次報告



2018-2019
ANNUAL REPORT

一般社団法人倫理研究所 令和元年度 年次報告 ANNUAL REPORT 平成 30 年 9 月 1 日～令和元年 8 月 31 日

CONTENTS

- 4 活動トピックス
 - … 地球倫理の推進
- 6 … 「地球倫理推進賞」の贈呈
- 7 … 丸山奨学金による支援
 - … 東日本大震災教育支援基金
- 8 … カリフォルニア州倫理法人会設立
- 9 … 全国青年フォーラム 2019
- 10 … しきなみ子供短歌コンクール
- 11 … 他団体への寄付・協賛
 - … 紀尾井町に新ビルの建設がスタート
- 12 倫理の研究と成果の発信
- 14 家庭倫理の普及
- 16 企業倫理の普及
- 18 書道や短歌などの文化活動
- 19 海外の普及
- 20 倫理を学ぶ多彩なセミナー
- 22 出版物の刊行
- 25 組織概要
- 26 … 家庭倫理の会・倫理法人会拠点数
- 27 … 主要施設・沿革

平成から令和に改元された本年度、倫理運動は創始 73 周年を迎えました。引き続き「地球倫理の推進」「日本創生」の二大理念をスローガンに掲げ、4 年目となる基本方針「さらなる『新』に挑む」のもと、純粹倫理を世の中に広く強くアピールし、自他ともに幸福な人生の創造に寄与する諸事業を展開しました。

対外的に「倫理文化研究センター」と称して 4 年目

となる研究部門では、研究体制のさらなる充実を図りつつ、純粹倫理と日本文化を中心とする研究を推進しました。研究成果は倫理研究フォーラムや定期刊行物で発表するとともに国内・海外での国際会議、研究会などにおいても積極的に発信しました。また家庭教育を推進する外部団体との交流も深めました。

普及部門の生涯局では、「子育てセミナー」を全国

で 1711 回、「子育て発表会」と「シニア弁論大会」を全国でそれぞれ 18 回開催したほか、東京のメイン会場と全国 4 カ所を同時中継でつないだ「全国青年フォーラム 2019（全国青年弁論大会）」には合計 3215 名が来場しました。青少年・子育て世代・シニア世代を一層強固につなぐ教育活動を行ない、健全な家庭づくりを地域社会に力強く推し進めました。文化活動は、書道・短歌

によって家族をつなぐ芸術活動を展開。また「第 14 回しきなみ子供短歌コンクール表彰式」を約 700 名の参加者を得て都内で開催しました。本事業は伝統文化の継承だけでなく、子供たちの国語力を培い、人間性の育成にも貢献する公益事業として、文部科学省はじめ教育関係者からも高く評価されています。

普及部門の法人局では、大目標である 10 万社にふさ

新たな御代を迎えて ——さらなる『新』に挑んだ令和元年度。——

わしい組織体制の構築のため、ゆるぎない 7 万社体制の確立をめざし、役職者が一丸となって倫理経営の普及・教育に尽力しました。倫理経営講演会は「大転換の時代―岐路に立つ―」をテーマに全国 695 カ所で開催。倫理経営の学習拠点である倫理法人会数は 719 カ所、期末時の会員企業数は 7 万 4157 社に達しました。また「倫理 17000」ライセンスは 9 社が新規認定を受け 183 社となりました。

教育部門の富士教育センターでは、受講生一人ひとりの心に純粹倫理に基づいた「人として生きる道」を教示し、よりよい人生を拓く豊かな心の育成をめざして家庭倫理、企業倫理、青

少年育成の各種教育セミナーを実施しました。また、地元の財産区より新たに借用した土地の整備や、敷地内で自然栽培を実験的に行なうなど、受講環境のさらなる充実にも取り組みました。

出版部門では、『万人幸福の栞（大判）』『万人幸福の栞を読む』『万人幸福の栞解説』の三書籍の改訂版を発刊したほか、定期刊行物も計画通り刊行しました。純粹倫理の言葉の中から選りすぐりの 31 篇に解説を加えた「標語カレンダー」と、表紙のカラーが異なる 2 種類の「実践手帳」も好評を博しました。

広報活動では、「第 22 回地球倫理推進賞贈呈式」を

都内ホテルにて 560 名の参加者を得て開催しました。「東日本大震災教育支援基金（りんりん基金）」の奨学サポートは、平成 25 年度認定の第一期く四期生 48 名のうち 31 名の給付期間が満了しました。また、平成 30 年度にリニューアルした新ホームページの充実を図り、6、8 月の訪問者数は月平均 2 万人を超え、過去最高を記録しました。

国際部門では、中国のクブチ沙漠（内蒙古自治区恩格貝）に第 70 次沙漠緑化青年隊ほか、地球倫理の森創

成 20 周年記念隊として編成された第 71 次隊と 72 次隊を「地球倫理の森ウランブハ」（内蒙古自治区バヤンノール市磴口）に派遣し、植林数は総計 43 万 55 本となりま

した。また、アジア諸国の留学生 7 名、中国・内蒙古大学学生 60 名に「丸山奨学金」を支給。台湾では「亜細亜台湾企業倫理促進会設立 3 周年記念大会」を開催したほか、「龍笛実業」に第 2 号となる「倫理経営模範企業認定証」を授与しました。米国では「カリフォルニア州倫理法人会」を新設して州体制へと組織を変え、ブラジルでは「サンパウロ倫理法人会設立 1 周年感謝の集い」が開催されるなど、国際普及のさらなる発展と拡充に努めました。

本年年次報告では、令和元年度の事業について、写真や図表を多用して包括的にご紹介します。





「地球倫理の森」の記念碑の前で、式典に参列する日中両国の主催者・主賓



記念碑をバックに笑顔の花が咲く



共に汗を流し、気持ちの通じ合った両国の青年たち（第70次沙漠緑化青年隊）



中国の広大な沙漠での「地球倫理」の実践・推進活動が
お蔭さまで、20周年を迎えました。

地球倫理の森 創成20周年記念
2019年7月6日

令和元年度 活動トピックス

社会教育団体として、
さまざまな生涯学習活動を
展開しました。

01 「地球倫理の森」 創成20周年

倫理研究所・丸山竹秋会長が提唱した「地球倫理」の実践活動として、1999年に開始した地球倫理の森創成事業は、20周年を迎えました。

令和元年7月4日から10日にかけて、中国・内蒙古自治区クブチ沙漠およびウランブハ沙漠に、日本から第72次沙漠緑化隊を派遣。丸山敏秋理事長をはじめ、内田文朗常任理事、本部スタッフ、家庭倫理の会および倫理法人会会員を合わせた計31名が参加しました。

6日、「地球倫理の森恩格貝」記念碑の前で執り行なわれた式典には、中国から、元全人代外事委員会副主任委員（現留日同窓会会長）の曹衛洲氏、在中華人民共和国日本国大使館参事官の藤岡謙一氏をはじめ、約50名の来賓が出

席しました。

主催者を代表して丸山理事長がこれまで緑化事業を支えてきた日中両国の関係者へ謝意を述べました。その後、本活動が人間教育の場となり、参加者たちが「心の緑化」を実感するとともに、日中友好を推進する役割を担ったことを紹介しました。続いて挨拶に立った曹氏は「新しい時代の日中関係を築いていくために、これからも手を携え、我々の手と汗で、地球倫理の森を両国の友情の森に育てていきたい」と語りました。

参加者それぞれが記念碑の周辺に、松の苗木の記念植林を行なった後、続いて行なわれた祝宴では、書家としても名高い曹氏から丸山理事長へ自作の書が贈呈されました。隊員は翌7日に同地を移動し、8日にかけて創成4年目となる「地球倫理の森ウランブハ」にて緑化活動を実施。

地球倫理の推進

計600本のポプラを植林しました。

本年度は第70次沙漠緑化青年隊46名を4月28日から5月4日に派遣し、恩格貝で1630本を植林。20周年記念隊として第9次隊29名、第10次隊31名（通算71、72次隊）をそれぞれ6月2日から8日、7月4日から10日にかけて派遣し、ウランブハで合計

1410本を植林しました。1999年の事業開始からの通算参加者は延べ2423名となり、総植林数は43万55本となりました。

倫理研究所では、今後も地球倫理の森での植林事業を継続するとともに、「地球倫理」の教育の場としても活用すべく、さらに新たな企画にも着手する予定です。

地球倫理の推進に、実践面で貢献している団体を顕彰しました。



02 「地球倫理推進賞」の贈呈

「第22回地球倫理推進賞」贈呈式を、平成31年3月29日、都内ホテルで開催しました（後援／文部科学省、産経新聞社、全国民間放送ラジオ局37社）。応募総数35件（国際活動部門11件、国内活動部門24件）の中から、国際活動部門は「認定NPO法人ジャパンハート」（吉岡春菜理事長）、国内活動部門は「NPO法人奄美青少年支援センター『ゆずり葉の郷』」（喜入博一理事長）を表彰しました。併せて、文部科学省総合教育政策局 地域学習推進課 香西健次課長補佐から文部科学大臣賞が贈られました。

「ジャパンハート」の吉岡秀人最高顧問は、ミャンマーを訪れた際に旧日本兵が現地住民に助けられたことを知り、「恩返し」の思いから活動を開始。



Photo: Junji Naito



「ゆずり葉の郷」は奄美大島において子供たちの「自立と共生」をめざして活動を展開。「すべての子は善く生まれ変わることができる」をスローガンに、3万件以上の不登校・ひきこもり・虐待・いじめ等の問題を抱えた青少年や保護者の相談・支援に応じてきました。先輩が後輩を善導する「少年警護隊」は、非行犯罪率減少において日本一の成果を収めました。そのほか、生活していくことが困難な青少年の自立を手助けする二つの施設の運営にも力を注いでいます。

贈呈式には560名が出席。記念講演では、両団体を取り組みと成果および活動現場の様相を發表し、出席者に深い感銘を与えました。

「奨学サポート」

被災による経済悪化によって大学進学が困難となった高校3年生を対象に、①入学支度金 ②授業料 ③生活費を給付。返済義務のない奨学金制度として、第一期生（平成25年度認定）から第四期生（28年度認定）まで計48名の大学進学・大学生生活をサポートしています。これまでの奨学金総額は3億8672万円で、そのうち本年度は4373万円を給付しました。また、第一期から第三期生のうち6年制大学在学中の2名と、大学院進学の1名を除く31名の給付期間が満了しました。



東日本大震災
教育支援基金

03 丸山奨学金による支援

令和元年度も「丸山奨学金」200万円を中国内蒙古大学（60名）に支給しました。併せて2カ国7名のアジア諸国の留学生（丸山奨学生）にも奨学金総額1010万円を支給し、勉学を支援しました。

令和元年度 丸山奨学生（7名）		
国籍	研究機関	研究テーマ
中国	オークランド大学	日本文学、ワールドビジネス
中国	神戸大学大学院	日本語・中国語の対照研究
中国	大阪大学大学院	近世の東照宮信仰に関する総合研究
中国	大阪大学大学院	ほのめかし表現の日中対照研究
中国	同志社大学大学院	明治維新の改革思想と日本
中国	東京大学大学院	日本の近代化と主婦化に関する研究
イスラエル	大阪大学大学院	日本の製薬政策と規制改革



富士高原研修所で生活倫理セミナーを受講した、中国からの留学生、党蓓蓓さん（左）と李金鳳さん（右）

04 東日本大震災教育支援基金（りんりん基金）

「東日本大震災教育支援基金」は、東日本大震災により両親や家族を失った遺児や若者たちの勉学を援助し、教育環境の整備に役立てることを目的として、平成23年4月に開設されました。基金は二つの分野への支援として活用され、開設以来の支援総額は5億2635万円に上ります（令和元年8月31日現在）。

「タグボート支援」

被災地における子供の教育支援活動を行なうボランティア団体を対象とした支援です。平成23年11月より支援を開始し、以来、23団体に計1億3963万円を支給しました。平成28年3月11日をもって寄付の受付を終了し、平成29年度をもって支援を完了しています。

海外および国内における教育支援

企業に倫理を！ 全米普及を視野に州組織が誕生



右から認可書を掲げるカリフォルニア州倫理法人会・飯田隆会長と、行動旗を掲げる遠藤昭彦事務長

05 カリフォルニア州倫理法人会設立

平成30年11月10日、カリフォルニア州トランスのホテルにて、カリフォルニア州倫理法人会設立記念式典が開催され、倫理研究所・丸山理事長をはじめ日本の倫理法人会会員を含む総勢108名が出席しました。

同会は、かねてより当地で活動する南カリフォルニア倫理法人会とオレソジカウンティ倫理法人会を統括する州組織として設立。これに伴い、南カリフォルニア倫理法人会はロサンゼルス倫理法人会へと名称変更しました。

第一部・式典では飯田隆会長が「日本の都道府県倫理法人会に相当する州単位の組織がアメリカに初めて誕生しました。二つの単位倫理法人会を統括し、倫理運動の輪を全米に拡充します」と意気込みを語り、ロサンゼルス倫理法人会の山本明美会長は「明朗・愛和・喜働を基本とする心の経営をめざし、倫理の学びを地元経営者、世界中に伝えていきます」と語りました。

第二部は、『心眼』をひらくのテーマで丸山理事長による記念講演が



山本会長（右端）以下、委嘱状を披露するロサンゼルス倫理法人会の役職者たち

「未来を創る」青少年の健全育成をめざして

06 全国青年フォーラム2019

令和元年7月15日、全国青年フォーラム2019（後援・文部科学省）を東京で開催しました。青年フォーラムは沙漠緑化活動とともに、倫理研究所の青年育成活動の大きな柱であり、4年に一度開催される全国大会はその集大成。会場には1468名が参加しました。今回は、福岡・熊本・鹿児島・沖縄の4カ所にパブリックビューイング会場を設置し、インターネットによる同時中継を実施。東京会場を含め合計3215名の聴衆が、弁士に熱い声援を送りました。



ユースの部で最優秀賞に輝いた平田明久さん（29歳／埼玉）

会場	参加者数
文京シビックホール（東京）	1,468
パブリックビューイング	
北九州芸術劇場（福岡）	416
くまもと森都心プラザホール（熊本）	345
ホテルウェルビューかごしま（鹿児島）	570
沖縄コンベンションセンター（沖縄）	416
合計	3,215

大会テーマは「ひらく明日の私へ」。当日は、全国で開催された各予選を通過したジュニアユースの部4名と、ユースの部4名の弁士による決勝弁論が行なわれ、それぞれが夢・希望・決意を堂々と述べました。厳正な審査の結果、最優秀賞に平田明久さん（埼玉県）、ジュニアユース優秀賞に吉岡明南さん（東京都）、ユース優秀賞に岩元みささん（鹿児島県）が決定。丸山理事長から表彰状とトロフィーが贈られました。さらに平田さんには、柴山昌彦文科大臣から文部科学大臣賞が授与されました。（関連記事15頁）

伝統文化教育への取り組み



短歌づくりを通して
子供たちの国語力を培い、
豊かな人間性の育成を目的に
短歌コンクールを開催。

表彰式では大きなスクリーンを用いて受賞者と短歌が紹介され、一人ひとりに表彰状が手渡された

⑦ しきなみ子供短歌コンクール

「第14回しきなみ子供短歌コンクール」を開催し、全国の小学生6万1789名（1110校）より応募がありました（後援／文部科学省、全国民間放送ラジオ局37社）。都道府県別の予選を経て平成30年12月7日の最終選考会では、東京成徳大学教授・青柳隆志氏、歌人・加藤千恵氏、しきなみ短歌講師・長井陽子氏の3名が特別選考委員を務め、しきなみ子供短歌賞（小学校低学年・中学年・高学年の部）の3名、特選20名、入選328名、佳作532名が選出されました。平成31年2月24日に「ニッショーホール」（東京・虎ノ門）で行なわれた表彰式では、受賞者22名と受賞者の家族および教育関係者100名を含む合計700名が出席。しきなみ子供短歌賞の受賞者3名には、文部科学省総合教育政策局地域学習推進課・丹野史教課長補佐より、「文部科学大臣賞」が授与されました。

しきなみ子供短歌賞受賞作品

低学年の部／伊藤優花／埼玉・2年生
たいようが光のふでで校ていに大きなカシの木のかげかいた

中学年の部／神谷和歌奈／沖縄・4年生
枯れ果てたまんじゅうのような母さんの足のうらから歴史が見える

高学年の部／大村瑠梨／静岡・5年生
虫や葉に鼻を近づけにおいかぐそれぞれがう命のにおい



左から「しきなみ子供短歌賞」「文部科学大臣賞」に輝いた大村さん、伊藤さん、神谷さん

倫理普及の後方支援として

⑧ 他団体への寄付・協賛

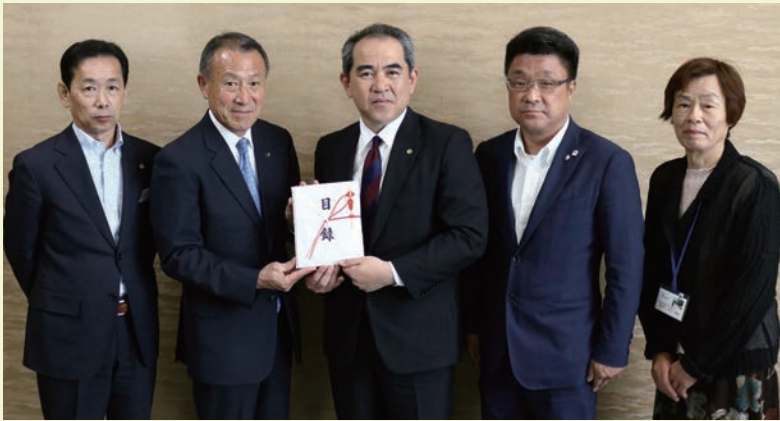
平成31年4月5日、丸山理事長が伊勢神宮を訪れ、「伊勢神宮式年遷宮御造営資金」として100万円を寄付しました。同寄付は、平成8年に丸山が理事長に就任以来、倫理研究所として毎年行なっています。

そのほか、がん研究の領域において特に優れた業績をあげた学者・研



伊勢神宮からの感謝状を拝受する丸山理事長

究者に対する学術賞の贈呈や研究奨励助成などを行なっている「公益財団法人高松宮妃癌研究基金」、創始者の生誕地・豊前市へ「豊前市芸術文化振興事業協賛金」の寄付・協賛を行ないました。同癌研究基金には平成6年より、豊前市には昭和63年より毎年寄付を行なっています。



後藤元秀豊前市長（左から2人目）に目録を手渡す吉川和儀理事

⑨ 紀尾井町に新ビルの建設がスタート

4月25日、倫理研究所紀尾井町第2ビル（仮称）新築工事の地鎮祭が執り行なわれました。同建設は、倫理運動創始75周年記念事業の一つ。設計は日本を代表する建築家で、現富士高原研修所の設計者でもある内藤廣氏。施工は前田建設工業㈱で、令和2年9月30日竣工予定。

当日は、丸山理事長をはじめ本部役員、内藤氏、前田建設工業㈱代表取締役の前田操治社長ら26名が出席し、工事の無事を祈願しました。

地鎮祭に続く直会の挨拶で内藤氏は「富士高原研修所は竣工から20年経ちましたが、新築時と変わらずメンテナンスされていることに感動しました。この第2ビルも、



100年先にも街にメッセージを発信し続けることでしょう。魂を込めて作り上げていきたいと思えます」と述べました。



研究発表する寛ボルテール専門研究員【左】と内田智士専門研究員【右】。研究発表後、トークを行なう丸山理事長と高橋徹専門研究員【下】



倫理の研究と成果の発信

対外的に「倫理文化研究センター」と称するようになって4年目となる研究部門では、研究体制のさらなる充実を図り、純粋倫理と日本文化を中心とする研究を推進・実行しました。また、定期刊行物・出版物・倫理研究フォーラムなどを通して研究成果を広く発信し、倫理の普及・教育・出版に資する知的資産の拡充に努めました。

研究の方向と重点

純粋倫理の基礎的・専門的研究、倫理文化の専門的研究を積極的に推進し、純粋倫理の体系化ならびに「倫理文化学」の構築をめざす研究を行ないました。

倫理文化に関する専門的研究

研究者	研究テーマ
内田智士	利他性と協調、公共財形成問題と道徳規範、認知的ゆがみと懲罰の進化等の研究
高橋 徹	負の世代間連鎖についての研究、この負の連鎖を断ち切るにはどうしたらよいのか等についての考察

倫理意識調査の実施

日本人の倫理観、日本人意識についての把握を目的に定点観測調査を

寛ボルテール	日本の伝統文化（無形文化遺産）および食文化の研究・調査を通して、日本文化の特質についての考察
松本亜紀	出産や育児に付随する身体技法の変容や女性性の本質に関する研究、出産体験に着目した子育て支援策のあり方の考察
平良直	宗教学・宗教研究の「公共性」研究および宗教教団の信仰継承、老年期の宗教的ケアに関する研究、自然と人間に関する宗教学的研究
水野雄司	明治から戦前昭和初期までの「日本思想」と道徳観の史的变化の分析
丸山貴彦	中国の「天真園」における太極文化の伝承と教育実践について、主に理念と方法に関する基礎的な研究
李致億	孔子思想における好学の意味と重要性や朱子学における気質と気質変化の意味等についての研究
龔穎	主に阿部次郎『三太郎の日記』の中国語翻訳の監訳

行ないました。

◇調査企画／倫理文化研究センター研究フエロー 海野 裕（マーケティングプランナー）
◇調査項目／これまでの「倫理25」コンセプトや日本人意識についての共感性・重要性・実践度、倫理意識の背景にある社会的価値観とパーソナリティを追加◇調査対象／全国15歳以上の男女1200名

各種研究会の開催

純粋倫理の基礎的・専門的研究に関する研究会（2回）、倫理文化の専門的研究に関する研究会（3回）、研究サロン（5回）を開催しました。

研究成果の発信

倫理研究フォーラムの開催

倫理研究フォーラムin仙台	開催日	平成31年4月21日	場 所	仙台国際センター	来場者数	210名	テーマ	心の若さを取り戻すー毎日を明るく元気に、いきいきと過ごすためにー	研究発表	「心の若さを取り戻すー毎日を明るく元気に、いきいきと過ごすために」 高橋 徹	倫理研究フォーラムin金沢	開催日	令和元年5月12日	場 所	金沢市文化ホール
---------------	-----	------------	-----	----------	------	------	-----	----------------------------------	------	--	---------------	-----	-----------	-----	----------

『倫理研究所紀要』（年刊誌）
純粋倫理の基礎的・専門的研究、倫理文化に関する専門的研究など、多様な研究成果を発信しました。

通 巻	第28号
発行部数	1420部

掲載論文

執筆者	テーマ
丸山敏秋	津田左右吉と丸山敏雄
内田智士	意思決定に付随する様々なバイアス
寛ボルテール	食と職人
高橋 徹	捕食者の生態
平良 直	宗教学の公共性
水野雄司	「日本思想」は、いかに分けて語られるか
李致億	李退溪「天命図」の人間観
津島晃一	サブバント・リーダーシップを経営に生かす

『倫理文化研究叢書』

平成30年8月に開催されたシンポジウムの内容を書籍にして刊行しました。タイトルは「自然と人間―倫理文化研究センター・シンポジウム2018」。また、故丸山竹秋会長の初出論文「自然と人間―自然の秩序と法則」を特別論考として掲載しました。

『平成の大御代 両陛下 永遠の二重唱』 同書（竹本忠雄著）刊行に関する業務を行ないました。

研究資料の蒐集と提供

実践体験事例1120篇、研究論

文220篇を分類整理・保存し、併せて教育・普及・出版の各部門の要望に応じて、情報提供を行ないました。

倫理資料館の運営・管理

純粋倫理の基礎的・専門的研究ならびに倫理文化に関する専門的研究に資する資料の充実化を図り、創始者の遺品蒐集・保存に努めました。

専門図書 の蒐集

倫理・道徳に関する専門図書計1182冊（新刊書1120冊・古書62冊）を受け入れ、分類・整理しました。

研究機関および研究者との交流

「日本家庭教育学会」「人体科学会」「日本国史学会」など諸学会の活動に協賛し、専門家との交流を深めました。また、道徳教育および家庭教育を推進する関係団体、ならびにその研究者とも積極的な交流を図り、国内外の国際会議・研究学会において研究発表を行ないました。

家庭倫理の普及

生涯局は「倫理」を基軸とする健全な家庭づくりを力強く推進し、会員が「倫理」を正しく学び喜んで実践し、自信と誇りをもって普及に取り組む道筋の構築に努めました。

家庭倫理の会では、青年は「全国青年フォーラム2019」に向けてリーダーの育成と人材の発掘を加速させ、子育て世代は都道府県毎の活動を躍動させて地域への発信力を高めつつ、シニアも活動の充実を図り世代間のつながりを一層強固にしました。さらに、「組織の拡充」の仕上げる年度として、未普及地域への拠点づくりに加え支部での懇談会を活性化させるなど、堅固な組織基盤づくりを推進しました。

おはよう倫理塾

毎朝5時より全国各地で開催し、幅広い年齢層が参加しました。参加者は純粋倫理の学習ならびに実践を通して豊かな人生を送るべく、相互研鑽、相互啓発に努めました。

開催会場	512カ所
参加者数	185万1234名

子育てセミナー

各家庭倫理の会において①妊産婦②乳幼児期の子を持つ親③児童期の子を持つ親④思春期の子を持つ親を対象に開催し、子育てに悩む若い父母層への純粋倫理の普及に努めました。



子育てセミナーでは純粋倫理を基本に子育ての要点を分かりやすく解説。若い母親や父親に好評を博した



た。また、お世話役である子育て正副委員長の研修会を平成30年11月から12月にかけて全国3カ所で開催し、若手人材の育成に努めながら、子育てセミナー開催への意欲を高めました。

開催回数	1711回
参加者数	1万4266名

子供倫理塾

各家庭倫理の会において小学生を対象に開催、純粋倫理についてやさしく解説するとともに、挨拶や後始末など「5アクト」の実践を奨励し、純粋倫理を基本とした生活習慣を学びました。

開催回数	780回
参加者数	5503名

子育て発表会

都道府県単位で開催し、一年間の活動の成果を語り合い、感動を共有しました。

開催回数	18回
参加者数	3273名

シニア弁論大会

シニア世代が豊富な人生経験と、

純粋倫理の学びと実践により培った信念を披歴し、各世代を倫理でつなぐことをめざして、家庭倫理の会単位または県単位で開催しました。

開催回数	18回
参加者数	4252名



純粋倫理基礎講座

全国の家庭倫理の会会員を対象に年間6回開催しました。純粋倫理の基本をテキストに基づいて学習し、理解を深めるとともに実践意欲を高めました。

開催回数	1218回
参加者数	3万912名

青年活動

沙漠緑化の植林活動

平成31年4月28日、令和元年5月4日、中国・内モン自治区恩格貝クブチ沙漠で植林活動を行ないました。日本から39名の青年が参加し、中国からも8大学73名の大学生が参加。スタッフを含む総勢119名が地球倫理の実践活動として植林を行いました。また、「家族と私」をテーマに日中青年混合でグループトークを開催し、国や文化を越えて家族の大切さを確認。両国の青年の絆を深めました。（関連記事5頁）



青年フォーラム

令和元年7月15日、「全国青年フォーラム2019」を開催（後援／文部科学省）。テーマは「ひらく明日の私へ」。今回は4年に一度の全国大会であり、平成30年11、12月に全国8カ所で開催された第1次予選、平成31年3月に東・中・西日本の全国3カ所でブロック予選を実施。当日は予選通過者が決勝にあたる弁論を繰り広げました。生涯局活動方針「世代をつなぐ」をキーワードに、中高生対象のジュニアユースと、大学生・社会人対象のユースに部門を分けて弁論が行なわれたほか、子供作文の発表やシニアスピーチなども行なわれ、最優秀賞の弁士には、柴山昌彦文部科学大臣より大臣賞が授与されました。（関連記事9頁）



企業倫理の普及

法人局は大目標である会員企業数10万社にふさわしい組織体制の構築をめざし、「地球倫理の推進」「日本創生」を旗印に、倫理経営の堅実な普及・教育に努めました。

倫理法人会は「堅実な普及活動による確実な成果」を実現するため、純粋倫理の学習の場である「経営者モーニングセミナー」や各種研修・セミナーの活性化を図るとともに、倫理経営インストラクターの基礎教育を徹底するなど、倫理経営を真摯に伝える人材の育成に力を注ぎました。また、海外普及を含め新たな拠点開発を推進しました。

倫理経営講演会

「大転換の時代―岐路に立つ―」をテーマに、平成31年1月～令和元年5月にかけて全国の倫理法人会で開催しました。事業体験報告や朝礼実演を交え、倫理経営の重要性や、職場に英気と活力をもたらす朝礼の必要性をアピールし、多くの経営者の賛同を得ました。

開催会場	695カ所
参加者数	7万4010名



経営者モーニングセミナー

毎週1回、早朝に全国の市・区単位の倫理法人会で開催しました。参加者は朝型の生活習慣を体得するとともに、各界で活躍する講師の体験談などを聴講し、企業を健全な繁栄へと導く倫理経営についての学びを深めました。また、会員同士の交流

や情報交換も盛んに行なわれました。

開催回数	3万4684回
参加者数	100万9471名

職場朝礼の推進

よりよい社風づくりと社員の資質向上をめざして、活力溢れる職場朝礼を推進しました。朝礼用のテキストである『職場の教養』を毎月200万部発行したほか、朝礼研修に力を注ぎ、朝礼実施企業の増大を図りました。

朝礼研修実施回数	127回
参加者数	1880名



後継者倫理塾

企業の未来を担う後継者の育成を目的に開催しました。純粋倫理の学習と実践を通して、よりよい生活習慣と豊かな人間性、真のリーダーシップを備えた将来の経営者の養成に力を注ぎました。



開催地	茨城・栃木・新潟・長野・埼玉・千葉・東京・神奈川・石川・愛知・大阪・香川・福岡
開催回数	年間7～11回
修了者数	154名

経営者の集い

業態により「経営者モーニングセ

講師・幹部の養成

純粋倫理の深い理解と実践力の強化・向上のために、役職者およびその候補者を対象に、継続して「倫理経営基礎講座」を各会で実施しました。また、「経営者の集い」「倫理経

開催回数	1585回
参加者数	2万4189名



「倫理17000」

真に地域社会へ貢献し、倫理経営を顕著に推進している企業を認定するライセンス制度として平成16年からスタート。令和元年度は新たに9社を認定し、53社の更新審査を実施、認定証を授与しました。

開催回数	2回
参加者数	189名

事業体験報告者研修

開催回数	2回
参加者数	121名

営講演会」における事業体験報告者の話力向上のため「事業体験報告者研修」を開催。さらに、新たな倫理経営インストラクター制度のもと、「倫理経営インストラクター研修」を富士教育センターで開催するなど講師陣の指導力向上に努めました。

認定企業数	183社
-------	------





亜細亞台湾企業倫理促進會設立3周年記念大会では、龍笛実業へ第2号となる模範企業認定証を授与。さらに、第1号認定企業の KissMe化粧品、龍笛実業が研修で学んだ活力朝礼のデモンストレーションを行ない、大会に華を添えた



小学校で行なわれた「短歌教室」で、子供たちは熱心に短歌づくりを学んだ

海外の普及

海外組織の育成ならびに国情に応じた倫理普及を展開し、「アジア（世界）のタグボート」として倫理道德意識の昂揚に寄与しました。

アメリカ
「倫理研究所USA」では「南カリフォルニア倫理の会」へ計画的に講師を派遣、組織運営の強化と普及力向上ならびに文化活動を支援しました。平成30年11月に「カリフォルニア州倫理法人会」を新設し、州体制へと組織変更。それに伴い「南カリフォルニア倫理法人会」を「ロサンゼルス倫理法人会」へ名称変更しました。同会では海岸清掃などを開催して、地球倫理の意識の昂揚を図りました。
「ニューヨーク倫理友の会」は日

中国
「倫理研究所中国事務所」（北京）を拠点に、中国社会科学院応用倫理研究センターをはじめ、諸機関とタイアップしながら倫理普及と学術交流を推進しました。
ブラジル
「ブラジル倫理の会」へ計画的に講師を派遣し、組織運営と普及力の強化ならびに文化活動を支援しました。平成30年11月に「サンパウロ倫理法人会1周年感謝の集い」を開催。また「カンピーナス倫理法人会」設立（令和元年10月を予定）に向けた準備等を進めました。

台湾
「中華民國倫理研究学会」へ定期的に講師を派遣し、普及・幹部教育・組織運営を支援。また「亜細亞台湾企業倫理促進会」の組織運営・発展を支援しました。令和元年5月には同会設立3周年記念大会を開催。さらに、「龍笛実業」に対して第2号となる「倫理経営模範企業認定証」を授与しました。

米文化交流事業を推進し、国際規模での倫理情報の発信に努めました。そのほか、邦字新聞「ニューヨークBIZ」に「倫理経営」に関する記事を毎週3頁掲載。また「マジックベルTV」とスポンサー契約を結び、インターネットCMを通じて全米に倫理経営をアピールしました。

書道や短歌などの文化活動

秋津書道会
書道鍛錬により純粹倫理の学びを深め、生活の浄化と倫理普及に取り組みました。
平成30年10月28日に同会創設80周年記念式典と講演会を大阪にて開催。参加者は同会の根幹である「生活の浄化と個性の発揚」を再確認するとともに、今後の発展を誓い合いました。

また、世代をつなぎ家族の絆を



80年の歴史における功労会員3名に感謝状が贈呈された

深める「家族書道教室」の開催と、「初めての書道教室」などを開催して、会員に限らず広く参加者を募り活動の輪を拡げました。

会員数	4310名
会場数	274支苑
月刊誌『秋津書道』年間出品者総数	2万9527名

しきなみ短歌会
短歌づくりを通して純粹倫理の学びを深め、生活の浄化と個性の発揚をめざすとともに、倫理普及に取り組みました。世代をつなぎ家族の絆を深める「家族短歌教室」の開催と、地域の小中学校における「短歌教室」のボランティアや公共施設で開催する「初めての短歌教室」などを通して、地域の教育力向上に貢献しました。

会員数	5936名
会場数	353支苑
月刊誌『しきなみ』年間出詠者総数	6万4452名



「中学生・高校生セミナー」では、富士の大自然を肌で感じる実習を通して、伸び伸びと倫理を学んでいく

倫理を学ぶ多彩なセミナー

会員対象セミナー

生活倫理相談士セミナー

生活倫理相談士を対象に開催しました。倫理を正しく理解し、伝達する現状の問題点と今後の課題を確認し合いました。

参加者数 (7組) 934名

生活倫理セミナー

「まごころ実践20」のセルフチェック20項目を基軸に、実践時の心に焦点を当てた講座・実習を展開。また本年度は丸山竹秋会長の歿後20年にあたり、特別に講座を設け、その功績について学びました。

参加者数 (8組) 840名



特別セミナー

創立70周年および創始者生誕120年を記念して制作した映像全8章の鑑賞と解説をメインに、倫理運動の草創期とその時代背景を史実に基づき学習しました。

参加者数 (2組) 214名

企業倫理セミナー

経営者倫理セミナー

集団行動を通じてチームワークの形成と徹底した自己凝視を図りました。年齢やキャリアを脱して行なう相互研鑽とケーススタディから、倫理経営の実践力向上をめざして講座・実習を展開。倫理経営による社

富士山麓の自然豊かな富士高原研修所において、家庭倫理の会の会員を対象とした「生活倫理セミナー」、倫理法人会の会員企業の経営者や社員を対象とした「企業倫理セミナー」、小学生と保護者を対象とした「小学生親子セミナー」など、各種セミナーを開催しました。
令和元年度は、4870名の受講者が純粋倫理の学びを深め、実践力の向上を図りました。

青少年育成セミナー

小学生親子セミナー

小学生は「遊び・遊び・戯」、保護者は「こどもを信じる」をテーマに学習しました。富士山トレッキングをはじめとする親子で行なう実習や、施設周辺の豊かな自然環境の中で伸び伸びと過ごしながら、子供の自立心や協調性を養う実習を行ないました。(令和元年7～8月開催)

参加者数 (6組) 293名



中学生・高校生セミナー

中学生と高校生を対象に、講義のほかに富士宝永登山やチーム創作発表会(即興パフォーマンス)などを通して、あきらめずに挑戦することや自分の意志をはっきり伝えること、どんな人とも協力し合う心の大切さなどを体験的に学習しました。(令和元年8月開催)

参加者数 78名(中学生37・高校生41)

会員献意識を涵養しました。

参加者数 (12組) 1053名



自主企画セミナー

国内外の倫理法人会や会員企業が単独で企画・実施できるセミナーを12組開催しました。いずれも事前に念密な打ち合わせを行ない、目的に応じたオリジナルのプログラムを実施しました。

参加者数 (12組) 510名



新入社員倫理セミナー

社会人として第一歩を踏み出すために、参加者は挨拶や後始末などの

参加者数 (6組) 153名

社員倫理セミナー

幹部社員・一般社員を対象に、自社における「活力朝礼」の積極的な運営方法や、日常業務の改善・向上の原動力となる恩意識の深化を主軸に講座と実習を展開しました。

出版物の刊行

定期刊行物

月刊誌

『新世』

生涯学習総合誌として、夫婦、親子、嫁姑、職場の人間関係を円滑にし、より良く生きるヒントとなる記事を掲載。各世代の読者層に純粋倫理をアピールしました。

人生の指針となる丸山理事長の巻頭論文「新世言」、子女名優の視点による「わくわく子育て親育ち」、次世代に残したい全国各地の伝統や文化をカラーで紹介する「美しきあきつしま」などのレギュラー記事のほか、毎号の「特集」では、社会の時流に添ったテーマを取り上げました。「実践の軌跡」では、主に子育て



て、疾病、夫婦関係、職場の人間関係、事業経営に関する手記を掲載し、それぞれに解説を加えました。

通巻

852号～863号

発行部数

189万8800部

『倫理』

純粋倫理の基礎的・専門的研究、倫理文化の専門的研究に関する諸論考を掲載しました。（関連記事13頁）

通巻

789号～800号

発行部数

7万9900部



『倫理研究所紀要』（年刊誌）

純粋倫理の基礎的・専門的研究、倫理文化に関する専門的研究など、

倫理運動の普及推進に資する出版物の刊行を各部門と連携して行ないました。

多様な研究成果を発信しました。（関連記事13頁）

通巻

第28号

発行部数

1420部



『職場の教養』

多岐にわたる話題・事例を題材として、職場人としての行動指針を提供しました。朝礼での活用を通じて自己を見つめ直し、職場や家庭で実行できるよう、分かりやすい文章表現に留意しました。

通巻

513号～524号

発行部数

2420万部



『秋津書道』

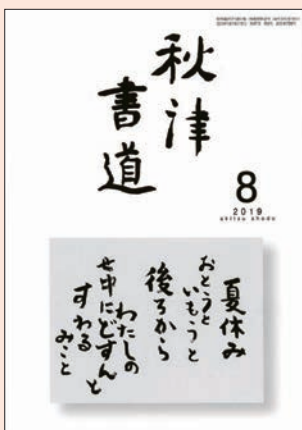
「秋津書道会」の創設者・丸山敏雄の書を学ぶ会員の相互研鑽の場として、初心者から上級者まで各々の書境向上に資する内容の提供に努めました。

通巻

788号～799号

発行部数

6万6100部



『万人幸福の栞を読む』

丸山敏秋著

『ひとすじのみち』（平成8年刊行）に一部加筆し、本文中の『万人幸福の栞』の引用部分の文字を大きくするとともに、装丁デザインを刷新しました。（倫理経営講演会推薦図書）



『万人幸福の栞解説』

丸山竹秋著

本文中の『万人幸福の栞』の引用部分の文字を大きくして読みやすくし、装丁デザインを刷新しました。（倫理経営講演会推薦図書）



『しきなみ』

短歌を通して純粋倫理の体得をめざす「しきなみ短歌会」会員の毎月の作品発表の場として、歌境向上に資する内容の提供に努めました。出詠者数日本一の短歌誌です。

通巻

870号～881号

発行部数

8万5800部



月刊紙

『倫研新報』

倫理研究所の主要事業・行事および、全国の家庭倫理の会、倫理法人会、海外の活動の報告記事を掲載しました。主な記事としては、「家庭倫理の会全役職者研修」「おはよう倫理塾」「子育て正副委員長研修」「子育てセミナー」などの家庭倫理の会の諸行事や、会員社数全国10万社に向けた倫理法人会の諸活動、カリフォルニア州倫理法人会設立、サンプアロ倫理法人会、台湾で行なわ



隔月刊誌

『倫理ネットワーク』

倫理法人会会員各位が、事業経営および倫理法人会活動において高い意識を維持できるよう、倫理経営の要点を学ぶテキストや法人局の方針と連動した記事を掲載しました。

通巻

134号～139号

発行部数

58万1000部

会員の構成

会員は倫理研究所の趣旨に賛同し、倫理運動に参加する意志のある個人と法人によって構成されています。個人会員の組織を「家庭倫理の会」、法人会員の組織を「倫理法人会」と称します。ほかに文化芸術活動を行なう「秋津書道会」「しきなみ短歌会」があります。

会員数（公称 /2019 年 8 月末現在）

家庭倫理の会	150,000 名
倫理法人会	69,000 社
秋津書道会	4,300 名
しきなみ短歌会	6,000 名

会費（月額）

個人	500 円
賛助	1,000 円
協賛	3,000 円
特別賛助	10,000 円
法人	10,000 円（1 口）

秋津 会員	1,500 円
〃 （ジュニア会員）	800 円
しきなみ 会員	1,000 円
〃 （ジュニア会員）	500 円

組織概要

名 称 一般社団法人倫理研究所
 英文名称 RINRI Institute of Ethics
 理事長 丸山敏秋
 常任理事 前川朋廣／徳江秀雄／内田文朗
 理 事 10 名
 監 事 2 名
 職 員 151 名
 所在地 〒102-8561

東京都千代田区紀尾井町 4-5
 TEL 03-3264-2251 FAX 03-3239-7431

創 立 1945 年 9 月 3 日（倫理運動創始の日）

1948 年 10 月 30 日に社団法人設立許可
 2013 年 9 月 2 日に一般社団法人へ移行
 倫理の研究並びに実践普及により、生活の改善、道義の昂揚、文化の発展を図り、もって民族の繁栄と人類の平和に資する。

- 目 的
1. 社会教育事業
 2. 研究事業
 3. 出版・広報事業
 4. 文化事業
 5. 地球倫理推進事業

ホームページ <https://www.rinri-jpn.or.jp>

組織概要

創始者・丸山敏雄

1892（明治 25）年 5 月 5 日、福岡県豊前市生まれ。広島高等師範学校を卒業し、師範学校などの教諭として奉職。37 歳で広島文理科大学に入学。日本の精神文化、歴史を探究するとともに、書道や短歌など芸術分野でも研鑽を積む。1938（昭和 13）年に「秋津書道院」、1946（昭和 21）年に「しきなみ短歌会」を創設。さらに、長年にわたる宗教や道德などの研究を土台に、自らの実践、体験を積み上げながら、「人間生活のすじみち」を研究し続け、それを純粋倫理と名づけた。その後、数多くの論文を発表しながら純粋倫理を体系づけることに力を注ぐ。

1945（昭和 20）年に倫理運動を興し、翌年、「新世文化研究所」（現・倫理研究所）を創立。自ら陣頭に立ち、一人でも多くの人に純粋倫理を伝えるべく、教育や講演、研究、執筆に身を賭す。『万人幸福の栞』『無痛安産の書』『人類の朝光』など著書多数（すべて新世書房刊）。

1951（昭和 26）年 12 月 14 日逝去。



手帳・カレンダー
「実践手帳2020」
 「爽やかなブルー」と昨年度に引き続き「華やかなピンク」（表紙デザインは変更）の二色を発売。週間予定の上部には、既刊書籍より、純粋倫理のエッセンスをセレクトして掲載しました。

販売部数 1万2284部

「2019 標語カレンダー
今日の道しるべ」
 31 日分の標語と 3 行のワンポイントアドバイスによって、純粋倫理の学びと日々の実践を明確に表わしました。

販売部数 14万7483部



沿革

1945 年 丸山敏雄、論文「夫婦道」起稿。倫理運動を創始。
1946 年 新世文化研究所設立（初代所長、丸山敏雄）。
1947 年 新世会設立。翌年、社団法人の許可を受ける。
1949 年 「朝の集い」開始（上野、神田、銀座、市川）。
1951 年 新世会を倫理研究所と改称。丸山敏雄逝去。
丸山竹秋、理事長に就任。

1966 年 富士高原研修所竣工。
1967 年 中日支所設立、支所体制がスタート。
1973 年 アメリカ・ロサンゼルスに拠点開設。
1980 年 千葉県に第1号の倫理法人会発足。
1985 年 丸山竹秋が「地球倫理の推進」を提唱（創立40周年記念大会にて）。

1986 年 中華民国（台湾台中市）に拠点開設。
1987 年 第1回日中実践倫理学討論会開催。
1989 年 丸山竹秋、藍綬褒章受章、社会教育功労者表彰。
1990 年 倫理法人会1万社達成記念大会開催。
1995 年 丸山竹秋が地球倫理推進の運動方針「アジアのタグボート」を発表（創立50周年記念大会にて）。

1996 年 丸山敏秋、理事長に就任。
1998 年 第1回地球倫理推進賞贈呈式開催。
倫理資料館竣工。
1999 年 創立55周年記念中国クブチ沙漠「地球倫理の森」創成事業スタート。丸山竹秋逝去。
2000 年 ブラジル・サンパウロに拠点開設。
2001 年 新富士高原研修所ランドオープン。
2005 年 個人会員組織を「支所」から「家庭倫理の会」に改称。「朝の集い」を「おはよう倫理塾」に改称。

2006 年 第1回しきなみ子供短歌コンクール表彰式開催。
2007 年 倫理法人会5万社達成記念大会開催。
2009 年 「地球倫理の森」創成10周年記念大会開催。
2010 年 日中実践倫理学討論会2010開催。
2011 年 富士教育センターオープン45周年記念式典開催。
ランドデザイン完成。

2013 年 一般社団法人へ移行。
2014 年 地球倫理の森創成15周年記念式典開催。長年の沙漠緑化活動が「第6回中国環境発展要人フォーラム」で表彰される。

2015 年 「地球倫理の森ウランブハ」創成事業スタート。創立70周年記念全国青年弁論大会開催。
2016 年 倫理法人会全国代表者大会開催。台湾に亜細亜台湾企業倫理促進会設立。
南カリフォルニア倫理法人会設立。富士教育センター開設50周年記念式典開催。
2017 年 オレンジカウンティ倫理法人会設立。
サンパウロ倫理法人会設立。
2018 年 カリフォルニア州倫理法人会設立。
2019 年 全国青年フォーラム2019開催。「地球倫理の森」創成20周年記念式典開催。

主要施設



倫理研究所（本部）

倫理運動推進の本部として、研究・普及・教育・企画・出版・広報などの各種業務を行なっています。
〒102-8561
東京都千代田区紀尾井町4-5

富士教育センター

純粋倫理の理論的・実践的学習の場として、小学生から成人までを対象にした各種セミナーを行なっています。センター内には、富士高原研修所・富士倫理学苑・富士万葉植物園・丸山敏雄記念館があります。



〒412-0008
静岡県御殿場市印野1383-9



天和会館

倫理運動の創始者・丸山敏雄の生家（2006年復元）に隣接した会館。主に倫理研究所の研修施設として活用されています。
〒828-0081
福岡県豊前市大字天和392

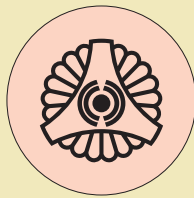
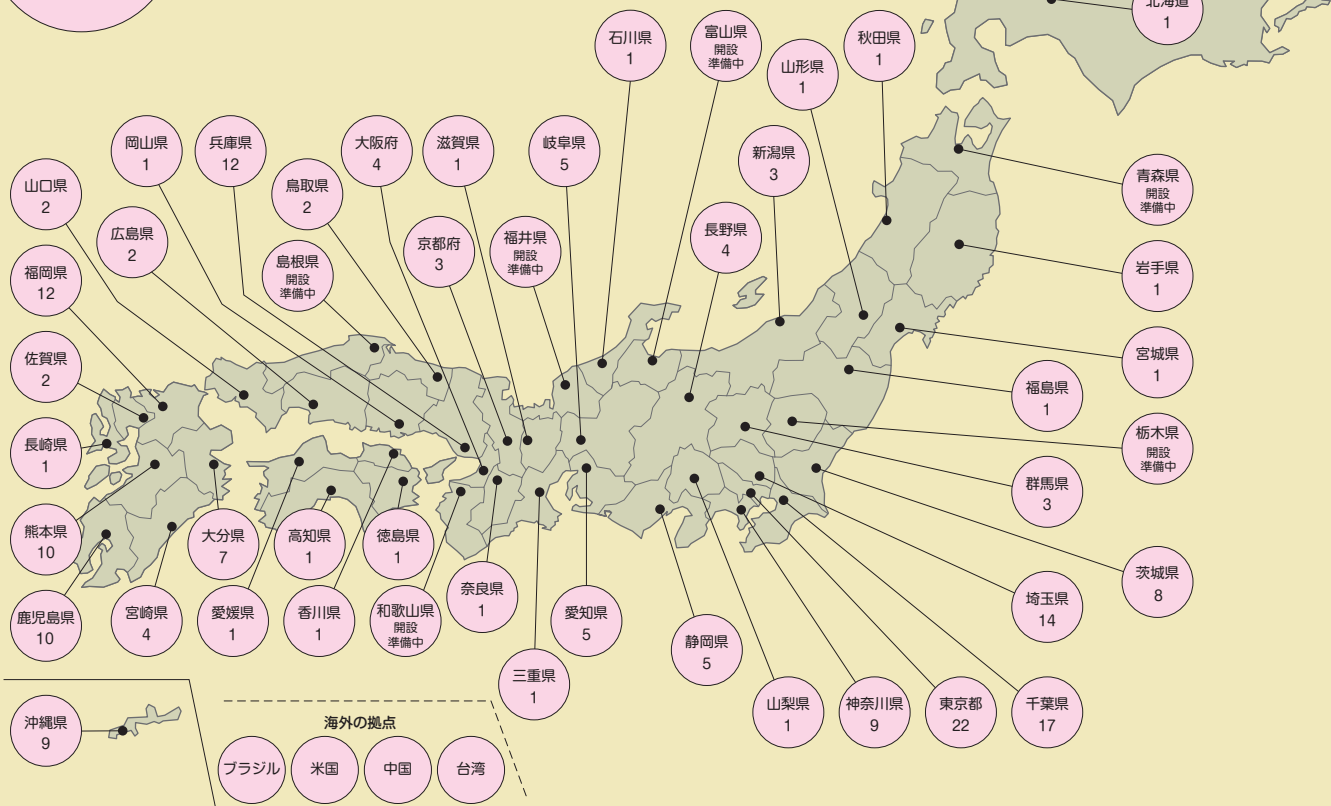
倫理資料館

創始者の遺品・遺墨、倫理・道徳に関する専門図書のほか、倫理運動史料や記録などの蒐集・保存整理を行なっています。
〒180-0022
東京都武蔵野市境5-6-25



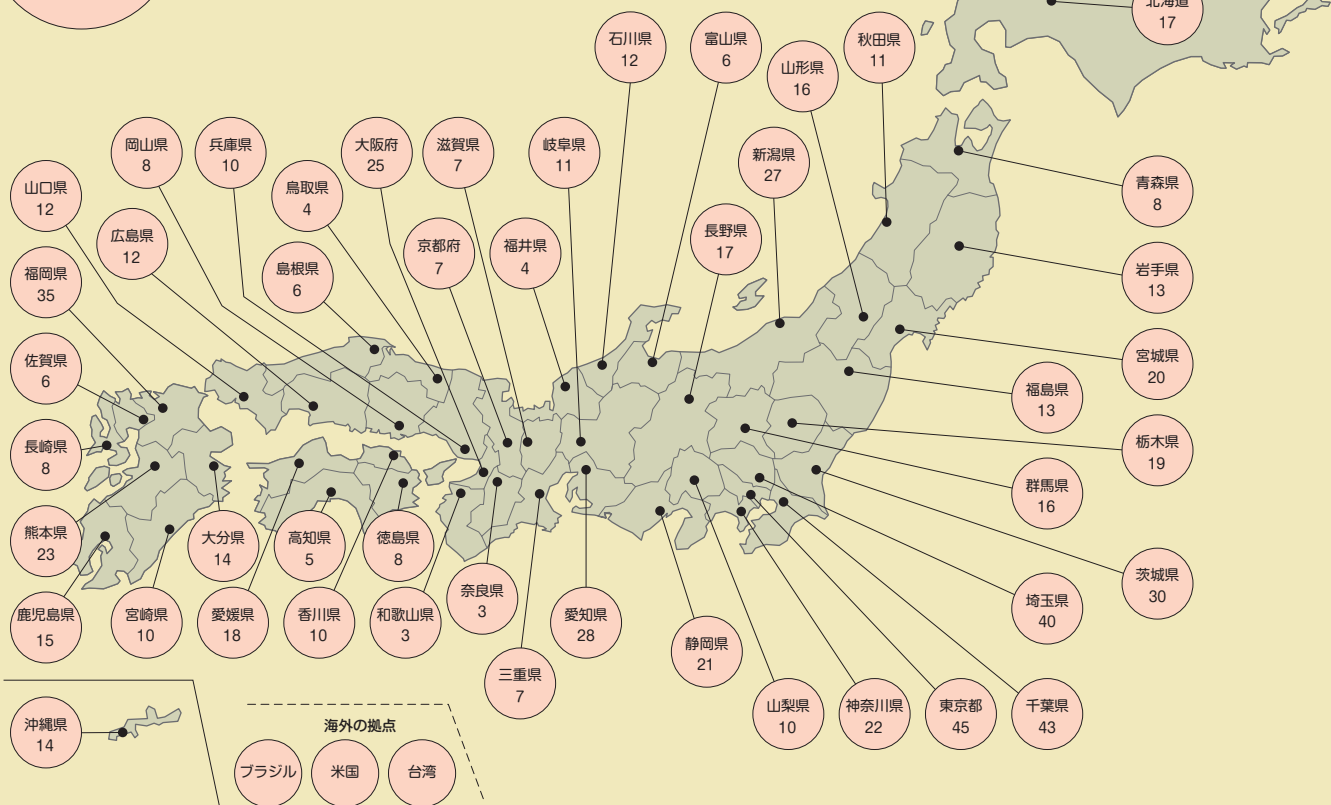
都道府県別拠点数（2019年8月末現在）

日本全国に191の家庭倫理の会があります。



都道府県別拠点数（2019年8月末現在）

日本全国に719の倫理法人会があります。





一般社団法人 倫理研究所

〒102-8561 東京都千代田区紀尾井町4-5 TEL 03-3264-2251
ホームページ <https://www.rinri-jpn.or.jp>

発行：一般社団法人倫理研究所 編集：倫理研究所総務部 発行日：2019.11.22